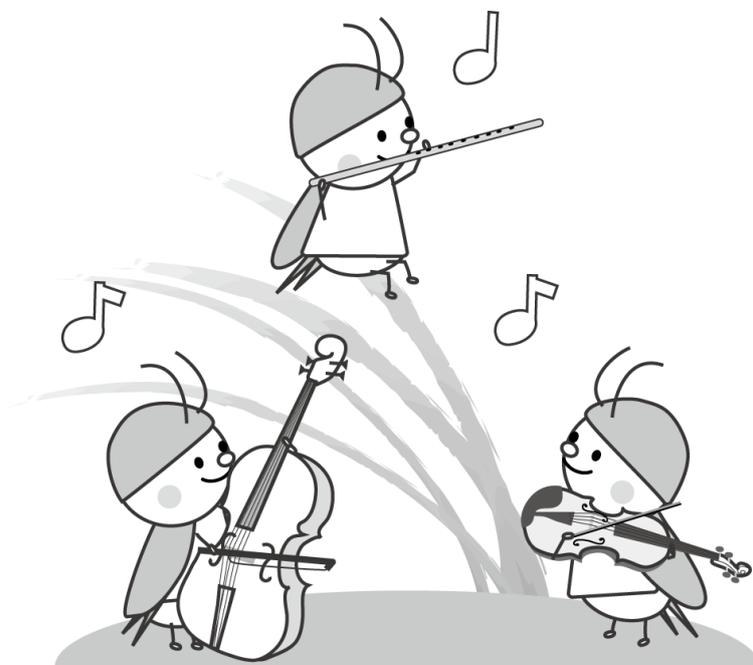


ニーズレター

(2011年 秋号)

グループホームネット 香川



もくじ

- 理事長巻頭 (2)
- グループホームに関わって (3)
- ひとこと雑記 (5)
- 事務局便り (6)

▼△▼△ 理事長巻頭言 ▼△▼△

「気」について

うちだはかる

「気」について、広辞苑に「心の動き・状態・働きを包括的に表す語。ただし、この語が用いられる個々の文脈において、心のどの面に重点を置くかは様々である」と書かれているものがある。

わたし達は「気」を無意識のうちに多く使っている。気が合う人と時間を共にするのは、気が置けない時間となるし、書かなければならない原稿を前に気を重くもしている。

サビ管から夜中に携帯の着信があると、気が気でない。元気が出たり、根気がなくなったり、気がすすまない時が最近多くなったようだ。根気がなくなっただのは年齢のせい？

自分はもともと気が小さいのだろうと気付いてきた。その事を認めると崩れてしまいそうだから、気付かない振りをして気を張ってきたのだろうと思うようになった。

GHNKの理事長を受けて以来、気の休まる時がないというのは言いすぎだとしても、気を使うのは事実だ。勿論、それほどGHNKの存在が大きいという事につながるのだが。

わたし達はもっと入居者一人ひとりに気を遣うことだ。ホームワーカー自身、随分と気を遣っている事は、理事たちも承知しているが。

サビ管やホームワーカーが夜中に、容態が悪くなった入居者の病院へ駆けつけたり、連絡が取れない家族を探して、明け方近くまで奔走した理事たちなど、頭の下がる思いがする。理事長としてできることは、気をもむ事や、気を入れて情報の整理をすることしかない。

入居者の多くは、気を使うことはあっても気を遣われた経験が少なかったのかもしれない。GHで生活するようになって、気が軽くなることを多く体験してもらいたい。人が集まる場所には触れ合いがあったり、すれ違いが生じたりするものだ。社会とはそういうことの繰り返しなんだろう。

気を使ったり、気を合わせたり気を回したりして、周囲と暮らしていくのだろう。GHNKでも同様であり、日々いろんなことが起こるもの。その中で「気が休まる」日々を送って欲しいものだ。

▼△▼△ グループホームに関わって ▼△▼△

ホームワーカーとして

乙黒 明世

私がこのNPO法人と関わりを持つようになったのは、コーヒーが縁です、高松に赴任して、美味しいコーヒーを探し回り、とあるコーヒー屋を見つけて常連となり、そのうち早期退職をした時に、サ店のマスターが精神障害の世界の話をして、活動に参加をするようになりました、最初は理事として月2回深夜までの会議が1年ほど続きましたが、現実には2個目のグループホーム（以後GH）を立ち上げるまでにはなかなか進展していきませんでした、2005年5月に事務員+ホームワーカー（以後HW）として、参加することになり、香川町の事務所を引き払い、自宅兼事務所として、事務員とHWを兼任しスタートをしました。

宮脇町にGHとして良い物件があり、暑い夏に各部屋の掃除をして受け入れ準備をし、入居希望者を募りました。新しいGHができたことを知らせるために、あちこちの病院をまわり募集をしたところ、ぼちぼち申し込みが来て、面接→体験入居→面接→入居準備→入居とばたばたとして、その年には4人のメンバーが入居し、HWの生活がはじまりました。

当GHは一般のアパート（1LDK）を借り上げて、その1室に共同部屋があるタイプなので、最初は入居者が共同部屋の炊飯器、炊事道具で料理をしているのを見ながらアドバイスをし、食べる姿を見ながら、いろんな雑談をしていました。

徐々に各メンバーが炊飯器・炊事道具を買い各部屋で料理をするようになり、自立をするようになり、映画鑑賞をしたり、音楽を聴いたりして楽しく暮らしていけるようになり、生活のリズムをつかみ、人それぞれの課題とテーマがあり、毎日顔を合わせながら、あーだ、こーだと言える、HWの存在はおおききことを感じます。

地味な仕事ではありますが、メンバーが落ち着いて楽しく暮らせていけることが、HWとしての願いであり喜びです。

闇

山内 仁史

先日、高松市で人権擁護大会があり世界的に著名なノルウェーの犯罪学者ニルス・クリスティ教授(83)(オスロ大)が来日し講演をしました。「どんな犯罪者でもモンスターのレッテルを貼ってはいけない。同じ人間として受け止め社会を見つめ直すべきだ」と話されたそうです。

今年4月に、栃木でクレーン車を運転中にてんかん発作で意識を失い登校中の小学生6人を死亡させた事故を覚えていますか。彼は、医師に隠して免許を取得し、薬も服用していなかった。

量刑だけが焦点ですが、しかしもし彼が自分の子供と考えればどうだろうか？小さな時は可愛らしく花を摘んでどうぞと持って来てくれた優しい我が子が急に泡を吹いて倒れ、学校では先生にカニと馬鹿にされ、同級生からは、さるかに合戦といって石をぶつけられて成長し(新聞では母親が事実を隠し私も共犯とある)母子家庭で弟や妹が学校を出るまで、必死でてんかんを隠して生きていたとしたら、彼を責める事はできるでしょうか？

意識、自覚、管理で犯罪は防げたかもしれませんが社会がもう少し愛情と思いやり、やさしさと分かち合いを持てば「本当は」この事故を防ぐ事ができたのではないのでしょうか。

最後に、教授は「彼が保釈された時は社会に温かく迎えなくてはいけない、報復すればかえって、彼を喜ばせる事になる」と話を締めくくったそうです。

▼△▼△ひ と こ と 雑 記▼△▼△

さなぎの時間

名無しの権兵衛

毛虫が蝶々になるためには「さなぎの状態」が必要だと言う事は、ほとんどの人が知っている事だと思います。じっと動かないさなぎを、いじってしまうと蝶への変身ができなくなる事もあります。

中学生の後半から高校生時代は思春期と呼ばれる時期。人生の中で一番揺れ動く時期でもあります。同時に、周囲（保護者など）にとっては全く扱いにくい時でもあります。

子供ではないが大人でもない自分を、どう扱っていいのか、本人自身戸惑っていたりもします。

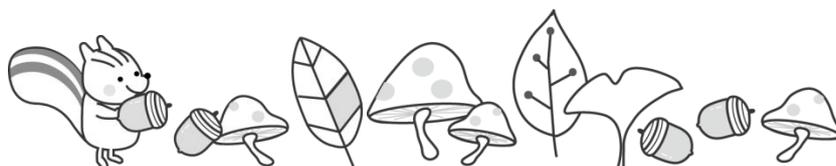
この厄介な思春期、何事も無く通り過ぎる人もいます。不登校と言う形で閉じこもる人もいます。一様ではないと言う事です。

周りは、学校へ行かなくなったわが子の事で、ああでもないこうでもない原因探しに奔走したり、口を開かない本人を攻め立てたり、右往左往します。もちろん親たちは、右往左往するものです。

しかし、閉じこもっていることは、その人にとっての成長に必要な時（さなぎの時間）と言う気がします。親たちは、子供は一様に右肩上がりで成長するものと思っているところがあります。しかし、実際には一人ひとり違って生きていくものなのでしょう。人とは違う生き方をしている。いわば個性的・個別的に成長するものなのでしょう。その事が『腑に落ちれば』周囲も随分と楽に見護る事ができるのでしょう。

わが子のことや気になる事があったら、相談室でこころの整理をしませんか？

相談室はこころの整理をする場所なのです。一年に一度大掃除をするように！



▼△▼△事務局 便り▼△▼△

増田 周作

こんにちは、昼夜の温度が大きくなり秋めいてきましたが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

今回は、グループホームに関わってということで、スタッフ2名に記事を書いていただきました。6年目のホームワーカーと4カ月目のホームワーカーとそれぞれの日々の関わりについて書いていただきました。それぞれの苦勞が目に見えるようです。

また、新たにコラムをスタートしてみましたが、いかがでしょうか？ 書き手は伏せて欲しいとのことで、名無しの権兵衛さんになっています。これからの記事に期待大です。

今年、生活保護の受給者が200万人を超えたということが言われています。厚労省は「厳しい雇用情勢や高齢化の進展が背景にある」としています。確かに、リーマンショックや震災、高齢化の影響もあるでしょうが、目先のことばかりに気を取られ、国民の利益を考えた国家の運営がなされてこなかったことが大きいのではないかなどと思ったりします。

小さいとはいえ私たちの法人も、目先の一時的な支援ではなく、入居者に対して継続した支援をし、夢や希望を持てる関わりを持っていきたいものです。

そして、それが私たちの法人自体の、夢や希望となってよりよい運営に取り組めればと思います。

グループホームネット 香川

(発行) 特定非営利活動法人 グループホームネット香川

連絡先： 香川県高松市円座町 1124 番地 6 入屋工務店 2 階

TEL : 087-885-5270

Fax : 087-887-5955

